

ノヤマ通信

vol.15 (2023.長月)



森のようちえんヒュッテ

【7月の活動場所：3日たこやき島⇒雨天のため中止、6日どんぐり王国、13日山の基地 ※南海放送の取材あり、20日山の基地、8月は夏休み】



▲涼しさを求めて木陰や川へ



●活動を見つめるコラム

「自分のために料理をつくる」

みなさま、毎日のごはんづくりお疲れ様です。先日、**自分のために料理を作る：自炊からはじまる「ケア」の話**という本を読みました。みなさんは、すごい疲れているのに、お菓子や料理を作っちゃったりすることってありませんか？私はあります。この思いに共感してくれた友達は、疲れている時ほど何かを作りたくなると話していたんですが、その理由がやっとわかった気がするんです。

仕事や子育てでうまくいかないことがあっても、自分でつくる料理は自分の思うように調理ができます。自分が好きなものを好きな味付けで作って、出来上がった大好物や、今食べたいものを出来立てで味わうことができる。この本では、その過程を「ケア」とよんでいました。そうかあの時の私と友達は料理をすることで自分自身をケアしていたんだなと今なら思います。この本で印象的だった箇所がもう1つ。(以下引用)「自炊ができるということは、自分の体調の移り変わりや生活の変化に合わせて、自分をいたわり養っていけるということです。この力があれば、ちょっとやさっとのことでは倒れないで生きていけます。(中略)大切な自分を養い、励まし、喜ばせることができるのが料理なんです。」

ヒュッテでも、クッキングの機会を設けていますが、旬や地域の素材を味わうことはもちろん、自分のために料理をつくれる力も少しずつ養っていきよう、見守りたいなと思いました。(ち)



▲7/20 森のようちえん@山の基地 (ブドウのデザートづくり)

山の基地

【7月に行った活動：9日開放日、23日イベント「山でスケッチをしよう」、8月に行った活動：12日、17日、26日日常管理、27日開放日】

●7/23のイベントでは、絵・文字・数字を使って自然のものを記録する、ネイチャージャーナリングに挑戦。スケッチと一緒に、観察して気づいたこと、不思議に思ったことなどをメモしていくこの方法は、自然を観察する力や身近なものをおもしろがるマインドが養われると考えられます。

まだスケッチするのが難しい小さい人たちには、葉っぱを使ったスタンプあそびをしてもらいました。

●8月は草が良く伸びていました。だいぶ大きくなったバッタやカマキリの姿もちらほら。虫たちのためにところどころ草むらを残しながら、草刈りをしています。



✿✿ その他の活動

●7/14上松葉奥池ビオトープの現地確認

市役所と草刈り業者の方の立ち合いがあるというので現地へ。草刈りの際に配慮してほしいこと、崩れた園路の修繕や堆積した土砂の撤去などをお願いしたいことを伝えました。



●7/26森のようちえんメンバーのお話会を開催

ヒュッテに通ってくれているメンバーのAさんに、子連れハワイ留学の体験談（生活や文化体験、現地の学校視察の様子など）をシェアしてもらう会を開催しました！



いつも参加してくれている保護者の方々と答えのない問いについてあーだこーだ意見交換できた時間もとても良かったです。



●7/30田んぼビオトープの観察会を実施

西予市城川町高川地区で、恒例の田んぼビオトープ観察会を開催しました。地域の子どもたちとビオトープにどんな生きものがあるか毎年調べています。今年はドジョウの幼魚が多く見つけたのが特徴でした。



●8/6川のいきもの観察会を実施

西予市城川町土居地区で川の生きもの観察会を行いました。地元の方から「昔はこんなしかけでハヤやウナギを捕まえよったんよ～」というお話も聞けて、楽しませていただきました。



●8/14愛媛県自然保育連盟の設立会議

この度、愛媛県内で森のようちえん活動に取り組む団体が集まり、自然とつながる生活や文化を基軸にした保育・幼児教育（＝自然保育）の普及および推進を連携して行なう組織として、“愛媛県自然保育連盟”を設立することになりました。web会議で、規約の確認や代表理事の選出を行い、今後の活動について打ち合わせをしました。

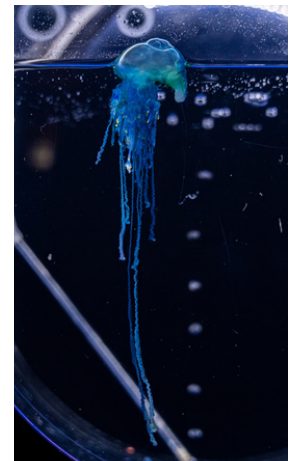
●8/18ブナの原生林の観察会を実施

市主催の体験事業の講師として、大野ヶ原のブナの原生林へ。参加者の子どもたちは、こちらからあまり促さなくても、葉っぱの手ざわりや花の匂いを楽しむなど、積極的に自然に関わる姿勢が良かったです。



🐼 よもやま話

●夏休み中、高知県大月町の柏島という海がきれいで有名な場所に家族で泳ぎにいきました。その時に次女がカツオノエボシ（通称・電気クラゲ）に刺されるというアクシデントがありました。カツオノエボシは、ふだんは沖合で生活しているのですが、台風などの際に浜に流されてくることもあり、特に太平洋側で多く見られます。右の写真のように青っぽくてきれいなのですが、触手に強力な毒を持っていて、刺されると電気が走ったような衝撃があります。



応急処置としては、からみつく触手を海水でしっかりと洗い流してから氷や真水で冷やすというもの（取り除くときに素手で触らないように注意）。もしショック症状や呼吸困難が出たら、すぐに救急車を呼びます。今回は、ラッシュガードを着ており肌の露出が少なかったこと、救急セットに抗ヒスタミン軟膏がありすぐに処置ができたことで、幸い軽症で済みました。外遊びでは危険な生きものへの備えを怠らないことがやっぱりとても重要です。（ゆ）



<発行> 一般社団法人

ノヤマカンパニー



愛媛県西予市宇和町稲生237-1

noyama.company@gmail.com